



ビジネスプロ養成スクール

企業の査定と与信の考え方

目次

1-1 損益計算書の構造	1
1. 損益計算書のフォーマット	1
2. 営業活動の表示	2
3. 営業外損益	5
4. 臨時的な損益	7
5. 公のコスト(税負担)	8
1-2 貸借対照表の構造	9
1. 貸借対照表のフォーマット	9
2. 流動資産項目	12
3. 固定資産項目	16
4. 流動負債項目	19
5. 固定負債項目	21
6. 純資産(資本)項目	22
7. 貸借対照表の分類	24
2-1 減価償却	25
1. 減価償却とは	25
2. 無形固定資産の償却	29
2-2 引当金	30
1. 引当金	30
2. 主な引当金の種類	30
3. 引当金の処理方法と表示	31
3-1 定量分析	32
1. 財務データの分析	32
2. 企業活動フレーム	32
3. 財務構成	34
4. 運転状況の分析	37
5. 百分比	39

3-2	利益とキャッシュフロー	40
1.	利益とキャッシュフローの関係	40
2.	キャッシュフローの存在意義	45
3-3	時系列推移	47
1.	損益構成と財務構成	47
4-1	与信の考え方	51
1.	企業の信用	51
2.	信用取引	51
3.	与信の考え方	53
4-2	与信枠の設定方法	55
1.	与信限度額設定の考え方	55
2.	与信限度額設定基礎データの限界	55
3.	債務履行の健全性	56
4.	与信限度額の設定方法	57
5-1	調査報告書の読み方	66
1.	調査機関の調査報告書	66
2.	調査報告書の構成	66
3.	調査報告書の読み方	67
6-1	債権の回収	79
1.	債権回収	79
2.	債権回収の手段	80

1-1 損益計算書の構造

1. 損益計算書のフォーマット (Profit and loss statement : P / L)

損 益 計 算 書		
(自○年○月 1 日 至△年△月 31 日)		
I	売上高	150,124 (販売数量×販売単価)
II	売上原価	111,111 (販売数量×仕入単価)
	売上総利益	<u>39,013</u> (主要取引による利益)
III	販売費及び一般管理費	
1	人件費	11,445
2	販売諸経費	7,982
3	減価償却費	4,527
4	賃借料	2,785
5	運賃保管料	2,998
6	その他	<u>3,826</u>
	販売費及び一般管理費合計	<u>33,563</u> (必要な活動経費)
	営業利益	<u>5,450</u> (本来の業務利益)
IV	営業外収益	
1	受取利息	18
2	受取配当金	190
3	有価証券利息	<u>45</u>
	営業外収益合計	<u>253</u> (本業以外の収益)
V	営業外費用	
1	支払利息	425
2	社債利息	250
3	為替差損	<u>13</u>
	営業外費用合計	<u>688</u> (主に金利負担)
	経常利益	<u>5,015</u> (本業+財務活動利益)
VI	特別利益	20
VII	特別損失	<u>35</u>
	税引前当期純利益	<u>5,000</u> (税金の対象利益)
	法人税等	<u>2,000</u>
	当期純利益	<u><u>3,000</u></u> (税引後の最終利益)

2. 営業活動の表示 (Operating activities)

(1) 売上高 (Sales)

売上高は、物品の引渡しやサービスの提供をもって認識します。また、代金を回収したかどうかは関係なく、将来代金を回収できる権利(売掛金及び営業未収入金など)が生じた段階で、売上高(営業収益)として認識します。

(2) 売上原価 (Cost of goods sold)

売上高が売価であるのに対して、売上原価は仕入価格や製造価格を指します。

業種	内 容
非製造業	外部から調達した単価で計算(仕入単価)
製造業	内部で製造した価格を決定(材料+人件費+経費=製造原価)
サービス業	売上に直接関連する費用の合計(人件費+外注費=営業原価)

【売上総利益 (Gross profit)】

売上総利益は、売上高から売上原価を差し引いて、主要な取引だけで生産した利益を表現しています。

売 上 高 - 売上原価 = 売上総利益(粗利益又は荒利益)

業績プラス要素(収益)	業績マイナス要素(費用)	結果(利益)
売上高	売上原価	売上総利益